

# 「特別の教科 道徳」アシスト 4



教科化がスタートして、  
実際にどんな取組が広がっ  
ているのかな。



教科化のスタートに伴ういろ  
いろな取組例を紹介します。

## 「特別の教科 道徳」アシスト4の主な内容

- 「特別の教科 道徳」（道徳科）が実施となって  
変わること・変わらないこと
- 道徳科に生かす指導方法の工夫
- 道徳科の評価のための工夫



## 「特別の教科 道徳」(道徳科)が実施となって 変わること・変わらないこと

道徳科が実施となって、何が変わったの？

大きく2つ変わりました。

### ① 教科用図書の主たる教材として使用すること

これまで各学校で準備した副読本等を資料として用いていましたが、教科化によってすべての児童・生徒に配られることになった教科用図書を主たる教材として使用することとなります。

### ② 道徳科の授業で児童生徒を評価すること

道徳科の授業で見られた児童生徒の姿を評価し、指導要録へ記入することになります。

では、道徳の教科化が始まって、変わらないことは？

教科化になっても変わらないこととして、大きく三つ取り上げます。

### ① 道徳教育は全教育活動を通じて行うこと

これまで通り、道徳教育は全教育活動を通じて行われ、道徳科の授業はその要であるという位置づけは変わりません。

### ② 道徳科の授業を年間35時間以上行うこと

教科化になり、道徳科の授業時間数が増えたわけではありません。これまで通り年間35時間(小1は34時間)は変わりません。

### ③ 道徳教育及び道徳科では、道徳性を養うことを目標としていること。

道徳教育の目標は「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」とあり、道徳科の目標は「道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため」と示されています。

大切なことはどんなことですか？

道徳教育の目標の達成に向けて、学校や学年として一体的に進めることが大切です。全教師が協力して道徳教育を展開するためにも指導体制の充実を図りましょう。次ページでは、道徳教育推進教師を中心とした指導体制づくりの取組例を紹介します。

## 道徳教育推進教師を中心とした指導体制づくり

道徳科の指導体制を充実するためには児童・生徒や地域の実態などを的確に把握し、育てたい児童・生徒像を明確にして、目標を設定し、年間指導計画を立て、教職員が共通理解、共通実践できるようにすることが大切です。



### ～生徒・家庭との共通理解を図る～



年度当初のオリエンテーションで道徳教育推進教師が全校生徒に、参観日に学校長が保護者に、道徳授業の「変わるこ

と」「変わらないこと」「評価」について話をしました。

### ～全職員が参画するプロジェクト～

#### 実態把握・職員研修



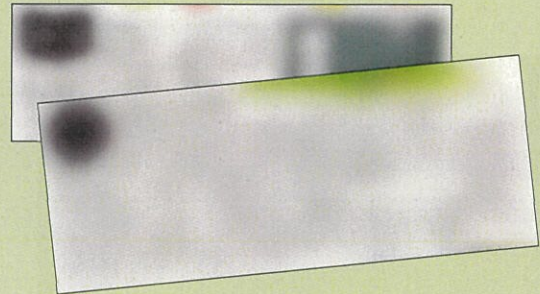
生徒の実態を把握するためアンケートをとったり、職員研修でねらいや評価に関して共通理解を図ったりしました。

#### 全クラス公開授業



道徳教育推進教師による推進計画等のもと、全クラスで道徳の公開授業を行い、事後に振り返りの研究会を行いました。

### ～学年・学級通信で家庭に発信～



授業で扱った内容や生徒が考え議論したこと、感想等を家庭に発信し、道徳科の取組を理解してもらったり、家庭でも話題にってもらったりすることで、道徳性を養う場を広げています。

### ～ティーム・ティーチング (T・T) ～



ローテーション型のT・Tを取り入れ、授業者の得意分野を生かした指導を行うと同時に、授業中にT1・T2の役割分担をすることで道徳的価値に迫る工夫をしています。

### ～学校間連携～



互いに道徳科の授業を参観するなど、小・中学校合同で職員研修会を実施することで、小・中連携を意識した道徳教育の実現につながります。

道徳教育推進教師が中心となって、自校の道徳科の実施状況や課題を押さえた上で改善を図り、道徳科の授業を充実させましょう。

## 道徳科の授業に生かす指導方法の工夫



道徳科の授業は、どうすればいいの？

道徳科の授業は、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を養っていく時間です。

授業のねらいや児童生徒の実態、教材や学習指導過程など応じて、最も適切な指導方法を選択し、工夫しましょう。

ここでは、「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」に取り上げられている道徳科に生かす指導方法の工夫に着目して、県内の学校の取組例を紹介します。



### (ア) 教材を提示する工夫

読み物教材の場合、教師による読み聞かせをするだけでなく、次のような工夫をすることで、児童・生徒の興味・関心が高め、問題意識を持たせることができます。

教材を提示する際は、多くの情報を提示することが必ずしも効果的だとは言えません。精選した情報の提示が効果的な場合もあります。

#### 場面絵と吹き出しを使って



ストーリーに沿って登場人物とセリフを示すことで場面を共有しやすくなります。

#### 具体物で提示して



読み聞かせに合わせて、登場人物の持ち物や動きを具体的な絵や物を使って黒板に掲示しながら進めます。

#### 資料を紙芝居のようにして

読み物教材の場面を一枚の絵にして、紙芝居のように読み聞かせます。



#### ICT 機器を活用して

ICT 機器を効果的に利用して、場面に合わせて映像や音声を提示します。



## (イ) 発問の工夫

教師による発問は、子どもたちの思考や話し合いを深める重要な鍵となります。子どもたちの多様な考え方を引き出すためにも、考える必然性があったり、自由な思考を促したりする発問を心がけることが大切です。

○子どもたちの思考に沿った発問

① どうして「私」は「ゆかさん」に声をかけようと思ったのかな？

② そのことについて、みんなはどう思う？ みんなで考えてみよう。

○自由な思考を促す発問

① もし、自分が「美奈」や「裕子」だったら、どんな言葉をかけるかな。

② 自分だったら…

○考える必然性、切実感のある発問

① なぜ「私」は声をかけずにはいられなかったのだろう。

② だって…

○物事を多面的・多角的に考えたりする発問

① 桃太郎は、鬼退治をするしかなかったのかな。

② 村人にとっては…

① 桃太郎としては…

③ 鬼の家族にしてみたら…

## (ウ) 話し合いの工夫

座席の配置を工夫したり、ペアでの対話やグループによる話し合いを取り入れたりするなど、一人一人の考えを出し合えるようにしましょう。

考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話し合いが行われるよう工夫が大切です。

座席の配置の工夫



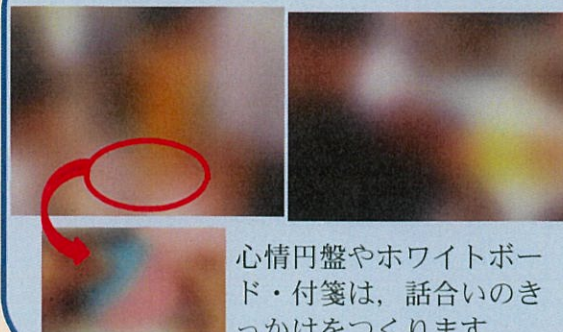
子どもの必要感に基づいて、車座やコの字型等座席の配置の工夫をして話し合いをしています。

ペアやグループ等の工夫



ペアやグループになって話し合いをしています。友達をたずね歩く場を設定することもできます。

ツールを用いて

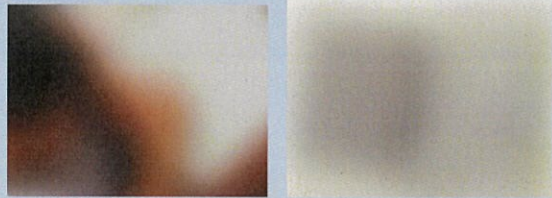


心情円盤やホワイトボード・付箋は、話し合いのきっかけをつくれます。

## (エ) 書く活動の工夫

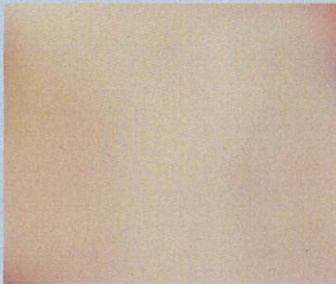
書く活動は、児童・生徒が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として、重要な役割をもちます。必要な時間を確保し、子どもたちが自分自身とじっくり向き合えるようにしましょう。

### 一冊のノート等の活用



道徳ノートをつくったり、学習カードに後で見返しやすくなるよう「第〇回」のラベルをつけて学習カードを蓄積したりしています。

### 学習カードの工夫



教材の登場人物への自我関与を促すために、学習カードに吹き出しを用いています。

### 評価に生かす



学習カードの終わりに、自己評価欄や相互評価欄を設けています。

## (オ) 動作化、役割演技などの工夫

即興的に演技したり、動きやセリフのまねをしたりすることで、実感的な理解につながります。日頃からの表現活動を大切に、子どもたちが伸び伸びと表現できるようにしましょう。

### 登場人物の動作化



動作化を通して登場人物の気持ちを考えます。

### 役割演技



役割演技の後、その時の気持ちを考えます。

### 所作や身のこなしの実演

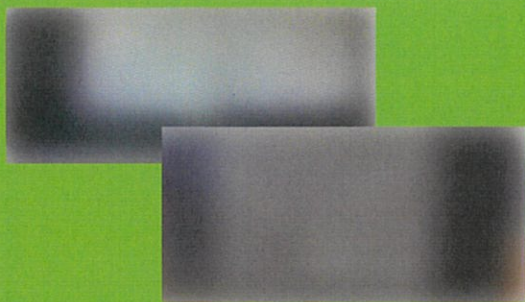


相手の気持ちに寄り添うあいさつの仕方を自分で考えて実演します。

## (カ) 板書を生かす工夫

思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、教師が明確な意図をもって対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなど、効果的な工夫をしましょう。

模造紙を使って、板書を「道徳科の学習の足跡」として残す



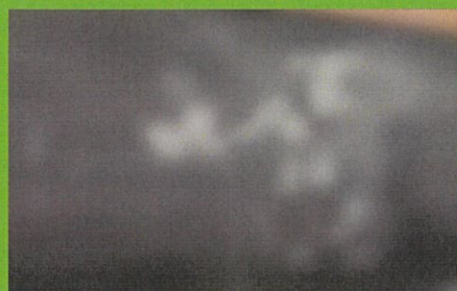
模造紙に書くことで、授業の後、教室に掲示をし、学習を見返すだけでなく、つながりのある内容項目の学習の際に、以前の学習の振り返りに活用します。

「第〇回道徳」で積み重ねを意識化



黒板に「第〇回道徳」と示すことで、今日の道徳が何回目かを知り、道徳科の学習の積み重ねを意識化します。

「心の相関図」で考えを見える化



一人一人の考えを縦軸・横軸で分け、行動面と心情面を位置づけ、自分の考えを明確にします。

## (キ) 説話の工夫

説話とは、教師の体験談や願い、子どもの日常生活における身近な話題、関心や視野を広げる時事問題、ことわざや格言、心に残る標語、地域の自然や伝統文化に関すること等を盛り込んで話すことです。率直な思いを教師が語ることで、子どもの心をひらくことにつながります。

本時のねらいと重なり、子どもに新たな問いを立ち上げるきっかけとなりえると考え先哲の思いを伝える

○友情を追求した授業終末で「星の王子様 サンテグジュペリ著」の一節を紹介する。「『星の王子様』の中でキツネが仲良しの王子と別れる際に『大切なものは目に見えない』と語る、そのことについてあなたは どう思う？」

本時の子どもの追求の姿から教師が率直に感じたことを伝える

○本時の授業の中心に据えた子どもの思いや教師が「はっ！」とさせられた子どもの思いに対しての教師の振り返りを語る。

「〇〇さんの語った△△について私はとても考えさせられた。これから私は〇〇さんの語ったことが自分の中でどう在るかを見つめていきたい。」

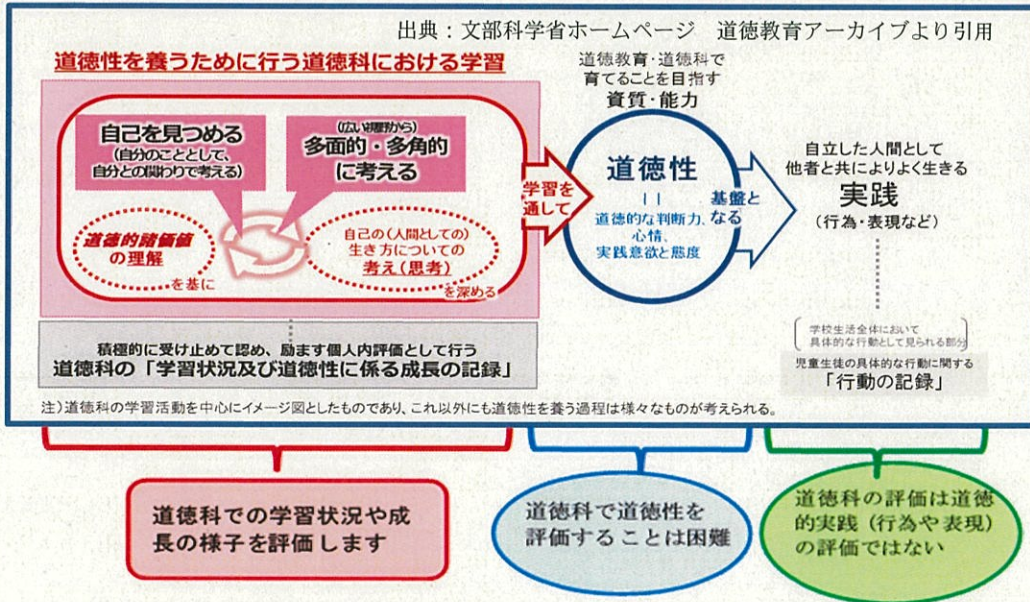
説話する際、子どもが教師の価値の押しつけと感ぜないようにするために以下の点に留意しましょう。

- ・子どもが振り返り等で導いた納得解を否定しない。
- ・道徳的实践へのあからさまで過度な要求はしない。 など

# 道徳科の評価のための工夫

道徳科の評価で重要なことは？

まずは、道徳科の評価のあり方をしっかりと捉えましょう。



そして、以下の点を確認しましょう。

- ・ 数値による評価ではなく、**記述式**とする
  - ・ 個々の内容項目ごとではなく、**大きくりなまとまりを踏まえた評価**
  - ・ 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて**認め励ます個人内評価**として行う
  - ・ 調査書には記載せず、入学選抜の合否判定に活用することのないようにすること
- 等

道徳科の授業での見取った子どもたちの姿や育ちを、認め、励ましていく姿勢が大切です。

道徳科の授業では、児童生徒の何を見取るの？

指導要領解説「特別の教科道徳編」には、重視する評価の視点として二つ示されています。

- ・ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
  - ・ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
- また、着目する学習状況の例として、次のような姿が考えられます。

**道徳科の学習状況(学びの姿)の例**  
(視点：多面的・多角的な見方へと発展しているか)

- ・ ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
  - ・ 道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
  - ・ 様々な登場人物の立場で考えている。
  - ・ 自分の考えと友達のことを比べて考えている。
  - ・ 時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
  - ・ 人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。
- など

**道徳科の学習状況(学びの姿)の例**  
(視点：自分自身との関わりの中で深めているか)

- ・ 教材の登場人物に自分を置き換えて考えている。
  - ・ 教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
  - ・ 日常生活や学校生活を想起しながら考えている。
  - ・ 自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。
  - ・ 自分だったらどうするかなど考えている。
- など



## 評価に向けた道徳科授業の工夫

道徳科の評価において「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」といった点を重視することは、道徳科の目標に明記された学習活動に着目して評価を行うということです。つまり、道徳科の授業の充実がそのまま道徳科の評価につながります。適切な学習活動を道徳授業に位置付け、子どもの学びを取りためていきましょう。

### 問題意識の共有

授業の導入では、主題に関わる問題意識をもたせたり、教材の内容に興味関心をもたせたりする等の工夫が考えられます。問題意識を子どもと教師が共有できるようにすることで、本時追求する道徳的価値を自分との関わりで考えられるようになります。

### 柔軟な学習活動

授業では、児童・生徒の実態と教材の特質を押さえた発問などをしながら、ねらいの達成に向けて学習活動が展開されます。

少人数による話し合いや役割演技、ICTを用いて思考を見える化する等、様々な学習活動を位置付けることで、子どもたちの多面的・多角的な思考につながります。

### 学習の振り返り

道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさや学んだことを深く心にとどめたりします。児童生徒が、自らの道徳的な成長やこれからの課題などを実感できるような工夫が大切です。

### 学びの蓄積

児童・生徒の学習の過程や成果などの記録をファイルに蓄積したものや道徳性を養っていく過程でのエピソードを蓄積したものを評価に活用することが考えられます。

評価に当たっては、記録物や実演自体を評価するのではなく、成長の様子を見取るためのものであることに留意が必要です。

# 平成30年度長野県道徳教育研究推進校の成果

## G 小学校、 H 中学校の取組から

### G 小学校

本音が生まれる道徳科授業のあり方

～一人一人が認められ、安心して語り合う授業づくり～

**【児童の実態】**

- ・学年が上がるにつれ、人前で話すことに対して抵抗感が大きくなる。
- ・授業の中やお話の中だけに留まらず、今後の自分の生活や行動につなげていきたいと感じている子が多い。
- ・議論をすることを楽しいと感じている子が多い。

**実践授業①**

- ・2時間扱いの授業展開・少人数による話し合い活動
- ・登場人物の関係を図化した板書
- ・フラッシュカードを用いた意見の分類

**実践授業③**

○主眼 『全校進捗とカブセミ』の前半部分を読み、決まりを守ろうと頑張っている友達の誘いを断れなかったおさむの気持ちや、思い切って「やっぱりためたよ。」と伝えたおさむの思いを考えることを通じて、自分ならどうするかを自分のこととして考えようとする。

【第1時】

- 1 本文を読み、内容を確認する。
- 2 おさむの迷いについて考える。  
おさむは、どのようなことを考えて「やっぱりためたよ。」といったのでしょうか。
- 3 自分ならどうするか考える。  
「さあ行こう」と声をかけられ、手を引かれたらあなたならどうしますか？
- 4 本時を振り返る。

【第2時】

- 1 おさむの経験について考える

発問1；「目も合わせず、長いことだまっていた」とき、おさむはどんなことを考えていたでしょうか

- ・おさむの言葉にできない気持ちを付箋に台詞として書く。
- ・おさむになって、おさむの迷いを語り、意見交流する。
- ・グループの仲間の考えを聞き、再度個人でおさむの迷いを考える。
- ・自分で感じたおさむの迷いを全体に発表する。

発問2；思い切って走り出したおさむは、なぜ気持ちよかったのでしょうか。

2 自分の生活を振り返る

発問3；今日のおさむのように、「迷った末に」正しい判断をして気持ちよくなったことはありますか。

**実践授業②**

- ・挿絵の提示
- ・お面を使った動作化
- ・話し合う場面の焦点化

**【和井内良樹先生（宇都宮大学）の講演から示唆されたこと】**

- ・切実感を持たせる → 学習課題の精選・教材研究
- ・話し合い活動を 発問構成の工夫・グループコーディネートする → での話し合い活動の工夫
- ・板書の工夫 → 思考の視覚化
- ・評価 → 数値によらない継続的な評価

**授業で大切にしたい視点**

本音を引き出すために、どう自分に引き寄せて考えられるようになるか

- ・本音に迫る発問構成をしっかりと組み立てる。
- ・活動場面を意図的に取り入れる。
- ・「自分も大切」「友達も大切」を基にして議論をさせる。

本音を表現できるようにするためにどうするか

- ・考え議論する時間を生み出すために、題材により2時間扱いとする。
- ・カードの記入に重さをおかず、少人数での話し合いに時間を割く。
- ・話し合いの場面では、グループで一致した結論を求めない。
- ・話形を示し、自分から話しやすくする。
- ・話し合いの場面で視覚的にも情報共有されるよう、付箋を利用する。

### H 中学校

自己を見つめ、友と関わりながら、

広い視野から多面的・多角的に考え、議論する道徳

**生徒の実態**

- ・友への思いやりがある
- ・集団生活での共生のための争いごとを起こさない

**授業の様子**

- ・反対意見が出た場合でも友と議論することがない。
- ・全体追求の場面でも意見を一方的に発言して終わってしまう。

**本校の問題意識**

生徒に特定の価値を押し付けたり、生徒が主体性をもたずに言われたままに行動するようにしたりする授業になっていないか。

**「自覚させたい価値」を大切にしたい 授業の展開**

- 「自覚させたい価値」を認識する。
- 自分なら問題に対してどのような結論を下すか考えを明確にする。
- 友の意見と比較し、新たな視点を得たり自己の考えを深めたりする。
- 題材の問題ではなく、そもその「自覚させたい価値」について考えを深める終末に。

**学習カードの工夫**

批判的な意見を述べるのが苦手な傾向な本校の生徒の実態を踏まえ、他者ではなく「自己と議論すること」を通して考えを深めると共に、道徳科の評価の点からも1時間の授業でどのように自分の考えが深まったのかが客観的に見えるような学習カードを工夫した。

「個人追求⇒全体追求⇒個人追求」という授業展開を目指し、それに合わせて学習カードも構成する。

**思考ツールの活用**

思考ツールを「考えを図化するもの」と考え、教材の特性や授業展開に応じた思考ツールを授業に取り入れた。視覚的に自分の考えを表出できることや全体の考えを一目で把握できること等の効果があり、個人の考えを整理して議論のきっかけを作ることにつながった。

**ハートメーター**

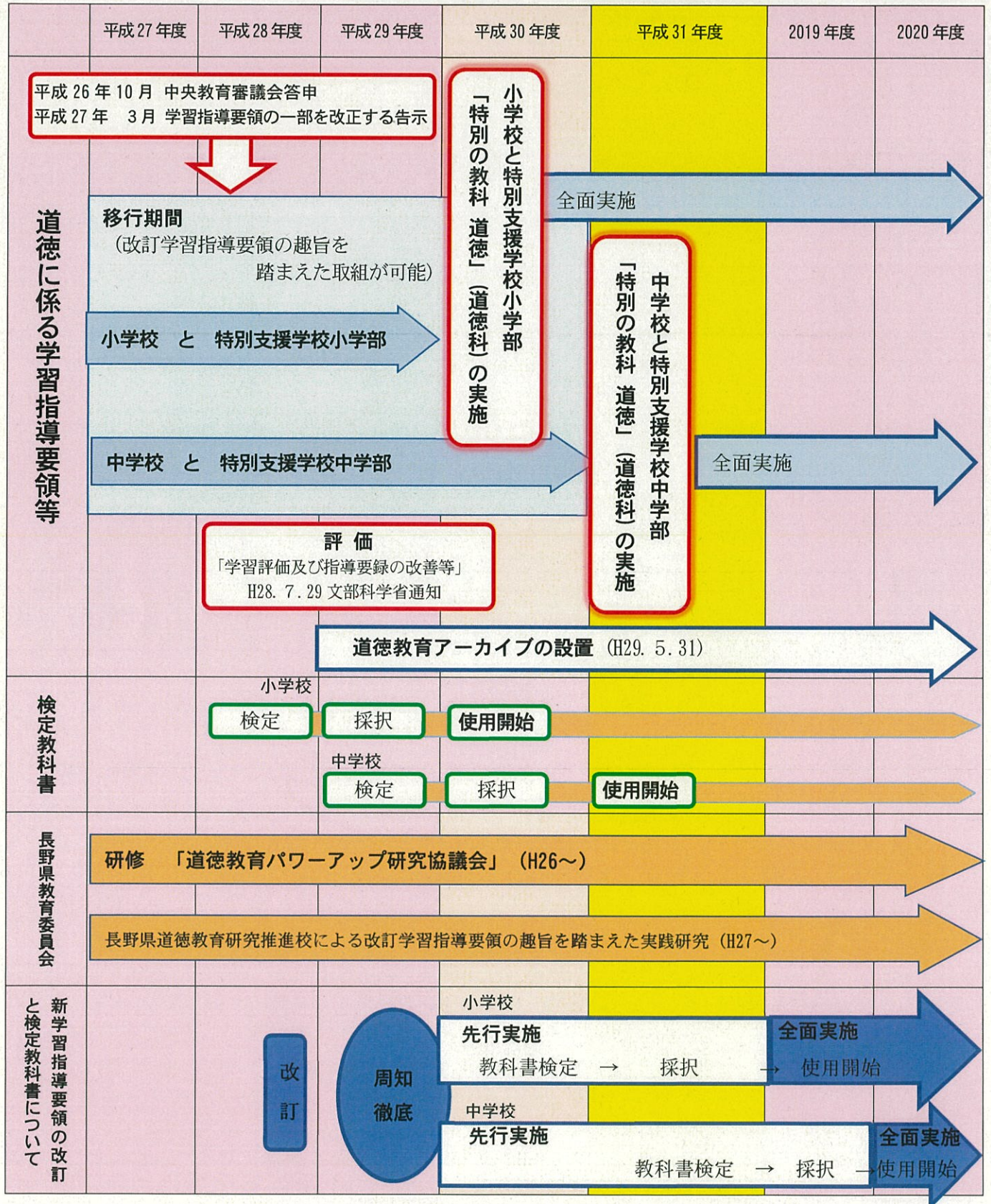
**ペン図**

**イメージマップ**

**共感・発見チャート**

# 道徳科に関わる、

## これまでの経緯と今後の予定



## これまでの「特別の教科 道徳」アシストの内容

(参考) H. 28. 3 発行

### 「特別の教科 道徳」アシスト 1 の内容

- 「特別の教科 道徳」に関わる、これまでの経緯と今後の予定
- 改訂の経緯 ○ 改訂の基本方針
- 道徳教育の目標 ○ 道徳科の目標
- 「道徳性」？「判断力」？「心情」？「実践意欲と態度」？
- 「道徳的諸価値の理解」？
- 「物事を多面的・多角的に考える」？
- 改訂のポイント「考える道徳」「議論する道徳」への転換
- 多様な指導方法・多様な展開の工夫を
- 内容項目一覧
- 家庭や地域との連携

(参考) H. 29. 3 発行

### 「特別の教科 道徳」アシスト 2 の内容

- 「特別の教科 道徳」に関わる、これまでの経緯と今後の予定
- C 小学校、D 中学校の取組から
- 道徳科の授業はどのような学習をするの？
- 道徳科における質の高い多様な指導方法について
- 演習「初デート」で道徳について考えてみませんか？
- 道徳科の評価はどのようになるのだろうか？
- 教科書が導入されますが、教科書以外の教材はどの程度使用できますか？（及び年間指導計画について）
- いじめに正面から向き合う「考え、議論する道徳」への転換に向けて（文部科学大臣メッセージ）
- 内容項目一覧
- 家庭や地域との連携

(参考) H. 30. 3 発行

### 「特別の教科 道徳」アシスト 3 の内容

- 「特別の教科 道徳」に関わる、これまでの経緯と今後の予定
- 道徳の教科化に向けた具体的な準備
- 教育活動全体を通じて行う道徳教育に向けて
- 道徳科における質の高い多様な指導方法について
- 道徳的行為に関する体験的な学習の要素を取り入れた授業構想
- 問題解決的な学習の要素を取り入れた授業構想
- E 小学校、F 中学校の取組から
- 道徳科の学習活動と評価のイメージ
- 道徳科の評価の在り方
- 道徳科の授業における児童生徒の評価の視点
- 内容項目一覧
- 家庭や地域との連携

今回のアシスト4では、実践事例を多く掲載しました。

道徳科の授業や評価などに関する詳しい内容については、これまでのアシスト1・2・3に掲載されています。合わせてご活用ください。



## 道徳科における質の高い多様な指導方法について（アシスト2より）

読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な 学習
<p><b>【ねらい】</b> 教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。</p>	<p><b>【ねらい】</b> 問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。</p>	<p><b>【ねらい】</b> 役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。</p>
<p><b>【授業展開例・導入】</b> 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向づける。</p> <p><b>【授業展開例・展開】</b> 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分との関わりで考える。</p> <p><b>（主な発問例）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうして主人公は、〇〇という行為を取ることができたのだろう。</li> <li>・ 主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのだろう。</li> </ul> <p><b>【授業展開例・振り返り】</b> 授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流したりして、自分の考えを深めたりする。</p>	<p><b>【授業展開例・導入】</b> 教材や日常生活から道徳的な問題を見つける。</p> <p><b>【授業展開例・展開】</b> グループでの話し合いなどを通して、道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。</p> <p><b>（主な発問例）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何が問題になっていますか。</li> <li>・ どうすれば◇◇（道徳的価値）が実現できるのでしょうか。</li> <li>・ 同じ場面に出会ったら自分ならどう行動できるでしょう。</li> </ul> <p><b>【授業展開例・探究のまとめ】</b> 問題を解決する上で大切にしたい道徳的価値について、なぜそれを大切にしたいのかなどについて話し合いなどを通じて考えを深める。</p>	<p><b>【授業展開例・導入】</b> 日常生活で、大切さがわかっていてもなかなか実践できない道徳的行為を想起し、問題意識をもつ。</p> <p><b>【授業展開例・展開】</b> 価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているのかを考える。</p> <p><b>（問題場面の役割演技など）</b> ペアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。</p> <p><b>【授業展開例・道徳的価値の意味の考察】</b> 役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。</p>
<p><b>【指導方法の効果】</b> 読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として有効。</p>	<p><b>【指導方法の効果】</b> 出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。</p>	<p><b>【指導方法の効果】</b> 心情と行為をすり合わせることで、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題等を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。</p>

# 内容項目一覧

文部科学省資料より

## 第3章 特別の教科道徳の第2に示す内容の学年段階・学校段階の一覧

	小学校第1学年及び第2学年(19)	小学校第3学年及び第4学年(20)
<b>A 主として自分自身に関すること</b>		
善悪の判断 自律、自由と責任	(1)よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行なうこと。	(1)正しいと判断したことは、自信をもって行なうこと。
正直、誠実	(2)うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。	(2)過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。
節度、節制	(3)健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。	(3)自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度ある生活をする。
個性の伸長	(4)自分の特徴に気付くこと。	(4)自分の特徴に気付く、長所を伸ばすこと。
希望と勇気 努力と強い意志	(5)自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行なうこと。	(5)自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志を持ち、粘り強くやり抜くこと。
真理の探究		
<b>B 主として人と関わりに関すること</b>		
親切、思いやり	(6)身近にいるふ人に温かい心で接し、親切にすること。	(6)相手のことを思いやり、進んで親切にすること。
感謝	(7)家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	(7)家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
礼儀	(8)気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。	(8)礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。
友情、信頼	(9)友達と仲よくし、助け合うこと。	(9)友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
相互理解、寛容		(10)自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。
<b>C 主として集団や社会との関わりに関すること</b>		
規則の尊重	(10)約束やきまりを守り、みんなが使う物に大切にすること。	(11)約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。
公正、公平、社会正義	(11)自分の好き嫌いとらわれないで接すること。	(12)誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。
勤労、公共の精神	(12)働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。	(13)働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。
家族愛 家庭生活の充実	(13)父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。	(14)父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。
よりよい学生生活 集団生活の充実	(14)せ先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。	(15)先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。
伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度	(15)我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	(16)我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと。
国際理解、 国際親善	(16)他国の人々や文化に親しむこと。	(17)他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。
<b>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b>		
生命の尊さ	(17)生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	(18)生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
自然愛護	(18)身近な自然に親しみ、動植物にも優しい心で接すること。	(19)自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。
感動、畏敬の念	(19)美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。	(20)美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。
よりよく生きる喜び		

小学校第5学年及び第6学年(22)	中学校(22)	
(1)自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	(1)自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	自主、自律、自由と責任
(2)誠実に、明るいい心で生活すること。		
(3)安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。	(2)望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。	節度、節制
(4)自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。	(3)自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	向上心、個性の伸長
(5)より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。	(4)より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。	希望と勇気 克己と強い意志
(6)真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。	(5)真理を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。	真理の探究、創造
(7)誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。	(6)思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。	思いやり、感謝
(8)日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。		
(9)時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。	(7)礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。	礼儀
(10)友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	(8)友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	友情、信頼
(11)自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	(9)自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。	相互理解、寛容
(12)法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと。	(10)法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。	遵法精神、公德心
(13)誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に務めること。	(11)正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。	公正、公平、社会正義
(14)働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。	(12)社会参画の意義と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。	社会参画、公共の精神
	(13)勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。	勤労
(15)父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。	(14)父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	家族愛、家庭生活の充実
(16)先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中の自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。	(15)教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚を持ち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中の自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に務めること。	よりよい学校生活、 手段生活の充実
(17)我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。	(16)郷土の伝統の継承と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
	(17)優れた伝統と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展の努めること。	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
(18)他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。	(18)世界の中の日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	国際理解、 国際貢献
(19)生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。	(19)生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	生命の尊さ
(20)自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。	(20)自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。	自然愛護
(21)美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。	(21)美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	感動、畏敬の念
(22)よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。	(22)人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。	よりよく生きる喜び

## 家庭や地域との連携

幅広い年代、職種の方々が集まり、

心の教育について考える、「豊かな心を育む教育フォーラム」

長野県教育委員会では、学識経験者や社会教育関係者、PTA関係者など14名の方に委員を依頼し、道徳教育推進委員会を組織し、長野県における道徳教育の振興に取り組んでいます。その取組の一つとして、「豊かな心を育む教育フォーラム」を開催し、心の教育にかかわる講演を聴いたり分科会で意見交流をしたりしています。

### 平成30年度 豊かな心を育む教育フォーラムの様子から

#### 【分科会】

##### 第一分科会



『読書活動で  
心豊かに』

##### 第二分科会



『自他尊重のコミュニ  
ケーションで心豊かに』

##### 第三分科会



『おそと遊びで  
心豊かに』

##### 第四分科会



『道徳科の授業で  
心豊かに』

#### 【講演会】

『黒坂黒太郎コカリナコンサート』

講師：黒坂黒太郎（コカリナ奏者） 矢口 周美（歌手）



分科会では、4つのテーマごとに講師をお招きし、豊かな心を育む取組についての意見交流が行われました。また、講演会では、コカリナ奏者の黒坂黒太郎さん、歌手の矢口周美さんをお迎えし、歌とコカリナ演奏を合わせてお話しいただきました。清く、澄んだ歌声とコカリナの音色に心が満たされ、素晴らしい時間となりました。

#### 終わりに

道徳教育推進教師の先生方を対象として、教育課程研究協議会や道徳教育パワーアップ研究協議会、学校訪問等の場で「特別の教科 道徳」の実施に向けた説明を重ねてきました。道徳の教科化が全面実施となった今、道徳教育推進教師の先生を中心として、校長先生・教頭先生方をはじめ多くの先生方に、教科化の趣旨と具体を理解していただき、共に取り組んでいただくようお願いいたします。（長野県教育委員会事務局 教学指導課）